

はじめに

富士通アーカイブズのコーナーでは、富士通についてのあれこれをご紹介させていただいております。第十一回は強化運動部のあゆみとスポーツを通じた地域貢献についてご紹介いたします。

1.強化運動部のあゆみ

富士通はスポーツを通じた活動として、陸上競技部、アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」、女子バスケットボール部「レッドウェーブ」の強化運動部を運営しています。

【陸上競技部のあゆみ】

陸上競技部は、1990年、それまで全国各地の事業所で活動していた精鋭に全国で活躍していた新入社員を迎え、オール富士通として集結し発足しました。バルセロナ1992オリンピックから、リオデジャネイロ2016オリンピックまで7大会連続で日本代表選手を輩出するとともに、北京2008オリンピックでは、4×100mリレーで塚原直貴選手と高平慎士選手が銅メダルを獲得し、リオデジャネイロ2016オリンピックでは、男子棒高跳で澤野大地選手が7位に入賞するなどの記録を残しました。ニューイヤー駅伝には26年連続で出場、また、男子20Km競歩において鈴木雄介選手が世界記録を樹立(2015年)するなど、日本陸上界を牽引する存在として活躍しています

【アメリカンフットボール部「フロンティアーズ」のあゆみ】

アメリカンフットボール部は、富士通グループのアメリカンフットボール経験者の同好会として始まり、1985年、日本アメフト界の開拓者となることを誓い「フロンティアーズ」と命名されました。3年目には日本社会人リーグ（I部リーグ）に昇格し、1992年には念願のリーグ優勝を果たしました。その後も安定した力を発揮し人気、実力を兼ね備えたチームに成長し、2017年には第70回ライスボールで2度目の日本一に輝き、名実ともにXリーグのトップチームとして活躍しています。

【女子バスケットボール部「レッドウェーブ」のあゆみ】

女子バスケットボール部は、1985年、選手の“自主性”をモットーに創部し、そのわずか4年後に日本リーグ2部（現W Iリーグ）に昇格しました。1993年、“赤い波が強豪チームを脅かす存在となるように”との思いから「レッドウェーブ」と命名され、それを体現するかのように翌年、日本リーグ1部（現Wリーグ）昇格を果たしました。2007年度Wリーグでは、悲願の初優勝を果たし、Wリーグを代表するチームへと成長しました。リオデジャネイロ2016オリンピックでは、町田瑠唯選手が日本代表として活躍し、来たる東京2020オリンピックでも活躍が期待されています。

富士通は東京2020オリンピック・パラリンピックを応援しています。

富士通は国内最高水準のゴールドパートナー（データセンター）として、オリンピック・ムーブメント、パラリンピック・ムーブメントの促進に貢献し、東京2020大会をサポートしていきます。



【フォトギャラリー】

【陸上競技部】



澤野大地選手



嶺村鴻汰選手

【アメリカンフットボール部 フロンティアーズ】



フロンティアーズ



富士通チアリーダー部
フロンティアレッツ

【女子バスケットボール部 レッドウェーブ】



レッドウェーブ

2. スポーツを通じた地域貢献

各部は、活動拠点を置く川崎市や千葉市を中心に、地域でのスポーツの振興と競技を普及させるため、子どもたちにスポーツの楽しさを知ってもらう「ふれあい教室」や「スポーツクリニック」を各地で開催するなどして地域との共生に努めています。

『富士通アーカイブズ』の見学をご希望される場合は、営業までお問い合わせください。